

余白の極意



池坊「いけばなを楽しむ会」 (教室No.147207)

●場所
〒171-0021 豊島区西池袋2-37-4 IKE・Biz としま産業振興プラザ TEL:03-3980-3131

●曜日・時間
第1木曜日、第3土曜日 13:00~17:00※会場の都合で変更有月1回、約1時間のお稽古。

海路氏 03-3984-4780 齋田

詳細はHPをご覧ください



まずは体験レッスンにお越しください

いけばなの基本を学び、伝統文化の知識や美的感覚を身につけませんか？善段の暮らしにも活かせるお花のスキルだから、毎日がもっと華やかに輝くこと間違いなし。まずはお気軽に、お近くの教室にご連絡ください。

Voice | メッセージ

48歳から、いけばなの世界へ

ただ、花を花瓶に挿すのではなく、「花をいかす」という考え方に共感し、お稽古を始めてみました。いけばなは、花と向き合うことで、自分とも向き合うことになります。花をいかすこと、それは人をいかすことにつながると気づき、自分の仕事の有り様についても考え方が変わってきました。慌ただしい日々の中、花と向き合い花と語り合う時間を大切に、お稽古させて頂いております。

いけばな歴9年
稲田さん
(会社役員)



いけばなで身につくチカラ

- 自分の理想をつくり出す「創造力」
- 何が必要かわかる「判断力」
- 実行するための「決断力」
- 日々が豊かになる「新たな感性」



花を学び、美を知る。

「いけばなで学ぶ

余白の極意とは

池坊いけばなは、「引き算の美学」と言われます。空間を埋めるように花をたくさん挿すのではなく、数輪の花や草木を使って、表現していくことを理想としています。

余白で空間の遠さや広がりを感じ、何も無い空間に余白を表現する、何もない空間に余白を見せることで、美しさの理解を深めていきます。何も無いからこそ、最高の美を感じる。余白の極意とは、いけばなの核心となる大切なことです。

いけばな教室では、お稽古を通して、生きていく命に共感し、季節を通して命の循環を知り、

いけばなの「道」を極める



美しい花をいけることができるようになること、それは一生懸命お稽古をして、感性を高め、心を磨くことです。入門してから10年が経つても謙虚で、ひたむきな態度を失わないことが、成長に欠くことのできない条件です。趣味として習うか、先生を目指すか、お稽古の仕方が違ってきます。もし、先生を目指すのなら、お稽古もそれだけ厳しいものとなります。先生を目指すには、高くなければ先生になれないのではなく、生徒の「一歩先でも半歩先でも歩みを止め、生徒と共に

学び、歩むことが大切になります。室町後期の家元、池坊専応は「器用な人でなくてもよい。心ある人が、稽古を積み重ねる花をさすことができる」と意味深い言葉を残しています。花をいけるのに器用、不器用は関係ありません。草木に密着する心を持って、ひたすらに稽古を重ねれば、良い麗のある花をいけることができます。先生達が歩いてきた道を知って、そこから教えを汲みとる、いけばなを極めるには、どこまでも学ぶ心を持ち続け、いけばなのお稽古を続けることです。



色や形だけの美しさだけでなく見えないものを感じる心を養います。そのことが、他者への思いやりの心を持つことに通じ、技術だけではなく人間的な成長にもつながります。

いけばなは、池坊から始まりました。

550余年の時を越え育まれてきた池坊のいけばな。「枯れた花にも華がある」と囁き、あらゆる命の姿に美を見出す豊かな精神性は、現代にも受け継がれています。

華道家元 池坊



一般財団法人 池坊華道会 〒604-8134 京都市中京区堂之町248 池坊9階
TEL.075-231-4922(代表) mail:nyumon@ikenobo.jp